

# 第2回 奈良の木利用拡大検討委員会

## 今後の取り組み方針(案)

H26. 10. 27

奈良県



©NARA pref.

第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～  
平成26年 奈良県開催

## 【川上(山側)】

- ・木材生産林において林業施業が活発に行われ、建築用材・合板用材・パルプ・チップ用材など幅広い素材が川中・川下側に安定的に供給されている。  
これにより、「伐る」→「使う」→「植える」→「育てる」→「伐る」という森林が元気になるサイクルに繋げていく。
- ・林業及び関連分野において雇用が創出され、山にお金が還り、県南部・東部地域等において活力が感じられる。

## 【川中(製材・加工・流通)】

- ・建材・合板・パルプ・チップなどを製造する幅広い受け皿が県内等で整備されている。
- ・川下側のニーズに対応した競争力のある奈良県産材製材・加工・流通ルートが確保されている。
- ・奈良県産材製品の安定的な流通先が確保され、多く流通している。

## 【川下(マーケット)】

- ・奈良県産材の建材、合板、集成材、パルプ・チップなどが広く流通し多く使われている。
- ・奈良県産材のブランド力が広く浸透しており、建築物や暮らしの道具など建築物以外でのニーズが広がっている。

川上  
(山側)



架線集材



ヘリによる搬出

低コスト作業道

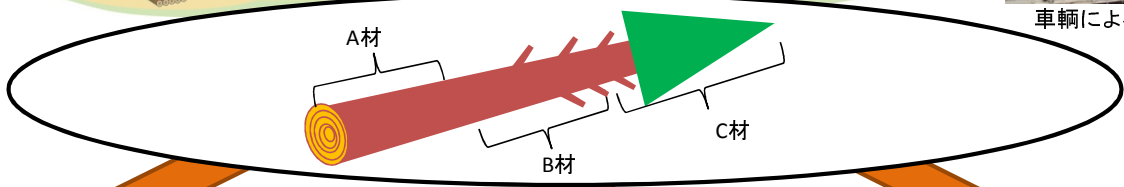
架線搬出

林道

車両系搬出



車両による搬出



「A・B・C材全てを搬出して、多用途に供給する林業」が実施されている

川中  
(製材・加工・流通)

A材 建築用材 高級材 一般材

・県内の大規模製材工場、ネットワーク化により競争力をつけた小規模製材工場、素材生産から建築までの一貫体制を担う産直住宅事業者等へ安定供給



B材 集成材ラミナ、合板用材

・県内集成材工場や契約合板工場等へ安定供給



C材 パルプ・チップ用材

・燃料チップ加工工場、製紙工場等へ安定供給



A・B・C材それぞれの受け皿が確保されており、その需要がさらに拡大していく

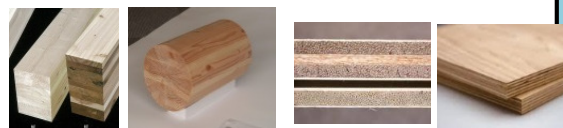
川下  
(マーケット)

・公共建築物や民間建築物において、ブランド力のある奈良県産材が多く使われている

・暮らしの道具や土産物など建築物以外での利用が進んでおり、多くの人が奈良の木のことを知っている



・県産材集成材や県産材合板が広く流通し多く使われている



集成材

合板

・木質バイオマス発電所(H28運転開始)へ安定供給されているとともに、製紙原料にも供給されている



## 【基本方針】

○「高級材を選んで出す林業」から「A・B・C材全てを搬出して多用途に供給する林業」へ転換

○A・B・C材毎の受け皿の確保と、県産材製品の安定流通を実現する木材産業の構築

## 目 標

<資料4-P1>

### 県産材生産量(素材ベース)

(H25) 148千 $\text{m}^3$  (A材:129千 $\text{m}^3$  B材:8千 $\text{m}^3$  C材:11千 $\text{m}^3$ )



(H32) 250千 $\text{m}^3$  (A材:148千 $\text{m}^3$  B材:44千 $\text{m}^3$  C材:58千 $\text{m}^3$ )

行動目標の設定 (①27年度～29年度、②30年度～32年度)

- (設定例)・第一種木材生産林からの素材生産量
- ・儲かる林業施業提案による素材生産量
  - ・奈良型作業道整備延長
  - ・新規林業就業者数
  - ・公共施設等での県産材利用量 など

# 川上・川中・川下における取り組み概要

## 川上 (山側)

・素材生産量の増加とA・B・C材全てを出す林業の拡大



### 素材生産量拡大に向けた取り組み

- ・奈良型作業道の整備推進
- ・架線集材拡大への支援
- ・間伐材搬出拡大への支援拡充



### 県独自の儲かる林業施業提案チームの設置

- ①森林GISデータから候補森林の洗い出し
- ②森林所有者への施業プラン提案
- ③施業決定森林について協定素材生産者が伐採・搬出を行い契約工場へ直送



## 川中 (製材・加工・流通)

(製材・加工・流通)

・A・B・C材毎の受け皿の確保と、競争力のある製材・加工・流通体制の構築



### A材 建築用材

- ・大口取引を担っている「少品目低コスト型」の大規模生産工場と山側との安定取引契約の実現  
一般材
- ・小規模製材工場のネットワーク化成功事例のPR等により競争力のある「多品目流通体制」を拡大  
高級材 一般材
- ・素材生産・加工・流通・建築・販売促進を一貫して行う、低コストで安心できる「産直住宅」の取り組み拡大  
一般材 高級材

### B材 集成材ラミナ、合板用材

- ・県産材ラミナ用原木の安定流通体制の構築
- ・林ベニヤ(京都府舞鶴工場)等との取引量の増加
- ・紀伊半島材を対象とする新たな合板工場誘致などについて研究

### C材 パルプ・チップ用材

- ・H28年から運転スタートするクリーンエネルギー奈良発電所(大淀町)への原木供給状況を把握・助言
- ・製紙、燃料チップ製造工場等への供給推進



## 川下 (マーケット)

(マーケット)

・県産材製品流通拡大に向けた販路の開拓

1. ブランド力の強化と販路の拡大
2. 公共建築物や民間建築物への県産材利用の推進
3. 木育の推進、多くの人々が身近に奈良の木の魅力を感じる暮らしの道具や土産物等への県産材利用の拡大
4. ユーザーニーズを踏まえた新製品の開発・提供、建材メーカーでの製品化等による販路の拡大、流通価格見える化の推進
5. 奈良の木の魅力を発信する人材の育成
6. 森林への理解を深める奈良の木ツーリズムの推進
7. 木質バイオマスエネルギーの利活用拡大 など



奈良の木がたまたトレイ



県がA・B・C材の需給コーディネート機能を担い、各取り組みを推進

# 川上(山側)における取り組み

## 素材生産拡大に向けた取り組み

### ○奈良型作業道の整備推進と架線集材拡大への支援 <資料4-P2>

・第1種木材生産林の採択要件の緩和（南部地域における補助対象面積要件の緩和）

#### 現在の採択要件

- 第1種木材生産林
- 利用間伐面積200ha以上（北部・東部地域は100ha以上）
- 奈良型作業道の路網密度50m/ha以上
- 年間利用間伐面積30ha以上（北部・東部地域は15ha以上）

見直し検討

#### 採択要件の拡充

- 第1種木材生産林
- 全ての地域で利用間伐面積100ha以上
- 奈良型作業道の路網密度50m/ha以上
- 全ての地域で年間利用間伐面積15ha以上



・第1種木材生産林における支援内容の拡充

奈良型作業道の開設重点支援(通常補助率68% → 傾斜に応じ県独自に81~88%へ嵩上げ) 等に加え、新たに架線集材施設の設置に係る経費補助の本格実施を検討

### ○間伐材搬出拡大への支援拡充 <資料4-P3>

・間伐材の搬出・利用に積極的に取り組む森林組合・認定事業者への支援について、補助対象をA材のみから、B・C材への拡大を検討



県	定額: 2,000円/m3の出材助成
市町村	定額: 1,500円/m3以上の出材助成

3,500円/m3以上の出材助成

認定事業者  
森林組合

補助対象  
A材(建築用材)  
<径14~40cm>



見直し検討

補助対象  
A材(建築用材)

+

補助対象の拡大  
<径40cm以下>

B材  
集成材ラミナ  
合板用材

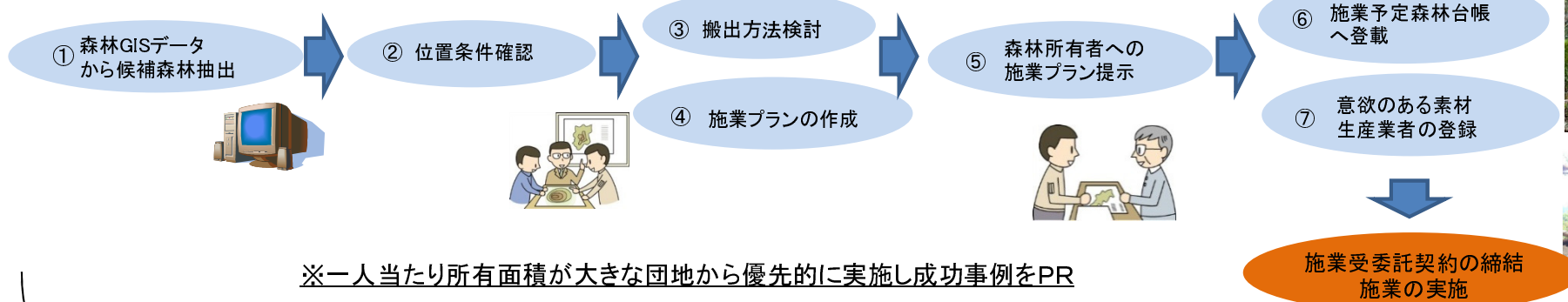


C材  
パルプ  
チップ用材



## 県独自の儲かる林業施業提案チームの設置 <資料4-P4,5>

・儲かる施業森林を掘り起こし、森林所有者と素材生産業者をマッチング



### 推進体制

儲かる林業施業提案チーム(県職員+外部専門家)を配置

連携

県森連・森林組合、市町村

### 【併せて実施する取り組み】

- ・A・B・C材の効率的搬出に向けた、仕分け方法や造材方法に関する素材生産者技術向上研修の実施 <資料4-P6>
- ・仕分け作業用中間土場等の設置検討
- ・素材生産力強化に向けた取り組み推進 <資料4-P7>  
素材生産力拡大会議の設置、新規労働者の確保・育成支援、林業技能者技術向上研修の実施、高性能林業機械導入支援 など
- ・皆伐方式による素材生産の検討 <資料4-P8>  
皆伐施業社会実験の実施検討、奈良県の実情を踏まえた皆伐施業実施マニュアル等の作成、再生林に係る支援施策の検討 など

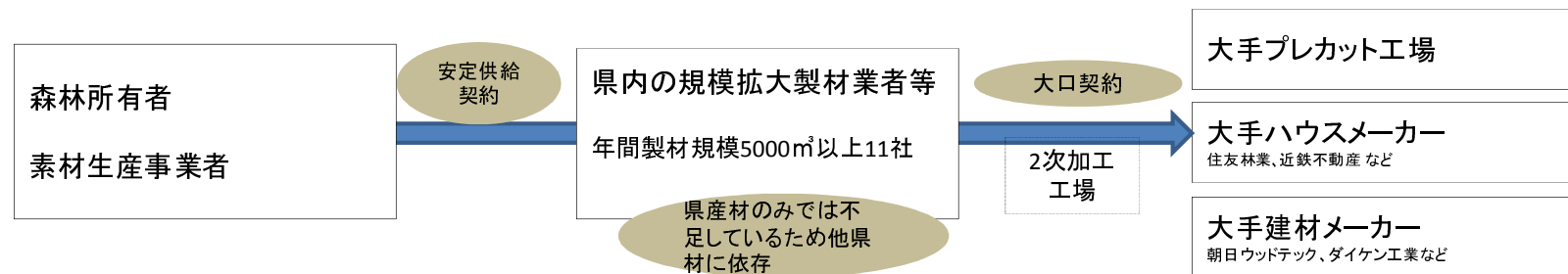
# 川中(製材・加工・流通)における取り組み

## A材 建築用材

一般材

### ○大口取引を担っている「少品目低コスト型」の大規模製材工場と山側との安定取引契約の実現

- ・市場ニーズに対応するために国・県の助成制度等を活用し事業規模を拡大する製材事業者が出てきているが、県産材が不足し他県材に依存している現状
- ・これら製材事業者と意欲のある森林所有者・素材生産事業者とのマッチングにより県産原木流通量を拡大



### 【併せて実施する取り組み】

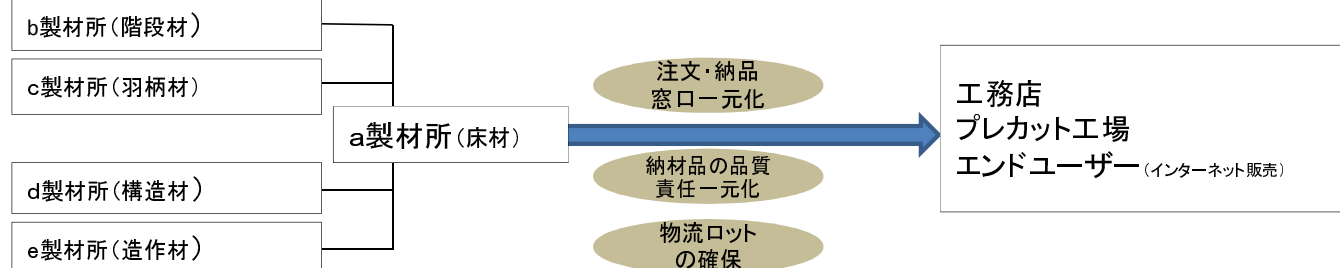
- ・川下側での県産材需要を喚起するPR戦略等の充実
- ・競争力ある県産材製品を生み出す素材生産・製材・加工・流通の各段階でのコスト抑制や品質向上の取り組みを支援
- ・多様なニーズに対応する乾燥技術確立に向けた支援  
乾燥技術向上研修の実施と技術マニュアルの作成・配布、乾燥設備の導入支援 など

### ○小規模製材工場のネットワーク化成功事例をPRし競争力のある「多品目流通体制」を拡大

- ・県内の製材事業者214社の大半が単一品を製材する小規模事業者であり、新たな販路開拓が難しい状況
- ・これら小規模事業者をネットワーク化して家一棟分の出荷体制を構築・拡大(桜井木材団地の取り組み等をPR)
- ・併せて「全国へのタイムリーな物流体制」を確保

高級材

一般材



### 【併せて実施する取り組み】

- ・多様なニーズに対応する乾燥技術確立に向けた支援  
乾燥技術向上研修の実施と技術マニュアルの作成・配布、乾燥設備の導入支援 など

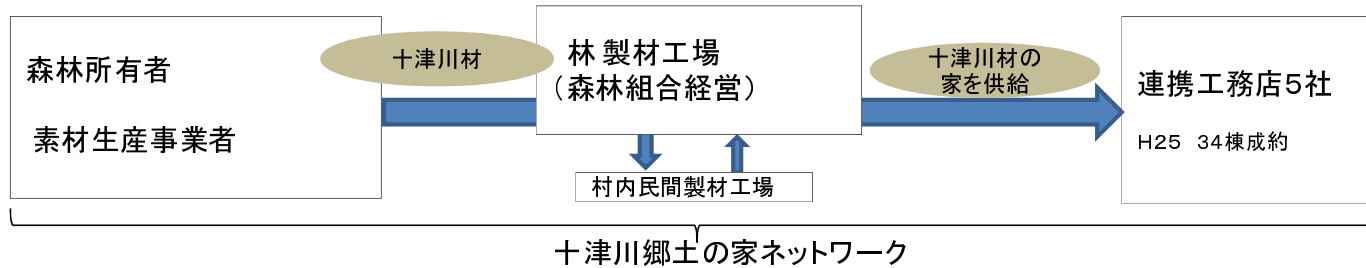


一般材

高級材

### ○素材生産・加工・流通・建築・販売促進を一貫して行う、低コストで安心できる「産直住宅」の取り組み拡大

- ・十津川村等における産直住宅の取り組みについて、生産効率化や品質向上等の面からの支援を行い木材流通量を拡大
- ・これらの取り組みをPRし、県下での取り組みを拡大



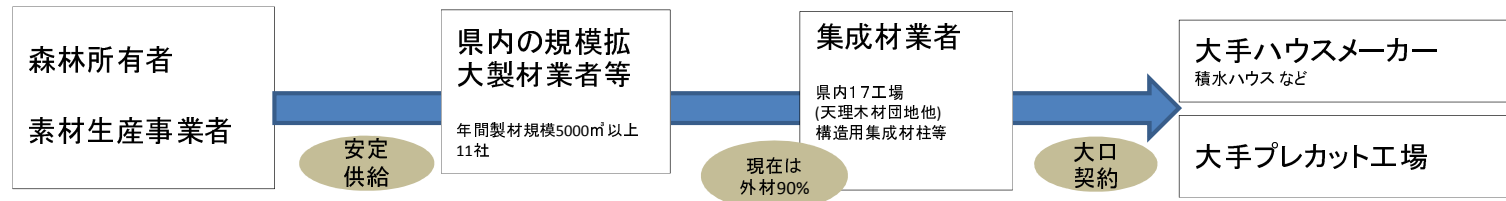
### 【併せて実施する取り組み】

- ・多様なニーズに対応する乾燥技術確立に向けた支援  
乾燥技術向上研修の実施と技術マニュアルの作成・配布、乾燥設備の導入支援 など
- ・品質管理技術の向上や生産工程効率化に向けた取り組みへの支援  
先進事例の研究、外部専門家による指導 など

## B材 集成材ラミナ、合板用材

### ○県産材ラミナ用原木の安定流通体制の構築

・年間生産量196千㎡を誇る本県の集成材工場への県産材ラミナの供給を拡大(現状は、価格面や安定供給面がネックとなり90%を外材に依存)



### 【併せて実施する取り組み】

- ・川下側での県産材需要を喚起するPR戦略等の充実
- ・競争力ある県産材製品を生み出す素材生産・製材・加工・流通の各段階でのコスト抑制や品質向上の取り組みを支援
- ・多様なニーズに対応する乾燥技術確立に向けた支援  
乾燥技術向上研修の実施と技術マニュアルの作成・配布、乾燥設備の導入支援 など
- ・収益性アップに向けたハチクイ材の利用用途の開発・普及  
防腐・防蟻加工による土台材への利用、チップ舗装など公共事業用材としての利用、県産材フリー板への利用 など

### ○林ベニヤ(京都府舞鶴工場)等との取引量の増加

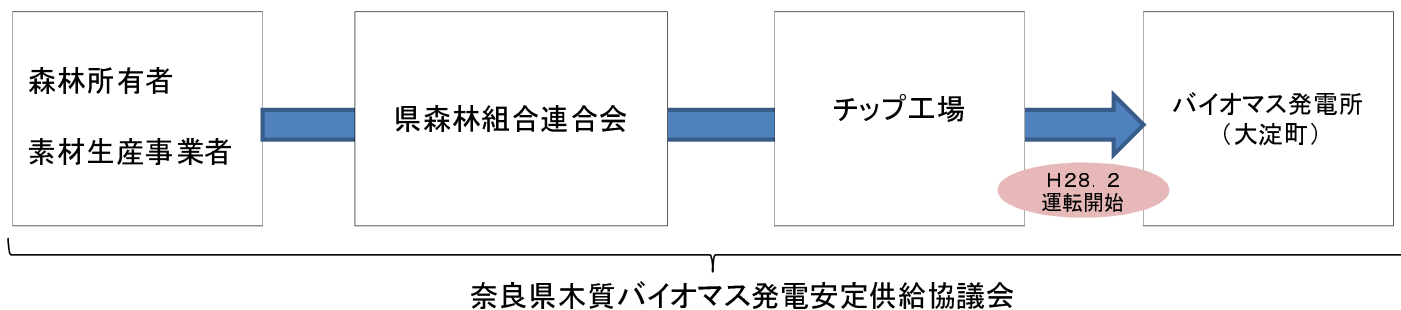
- ・現行取引9,000㎡/年からの拡大について調整
- ・奈良県産材100%合板の製品化・PR

### ○紀伊半島材を対象とする新たな合板工場誘致について研究

- ・国産材合板ニーズや外材製品の輸入不安から、国産材合板工場の立地が活況(この10年で製造量が9.1倍に増加)

## C材 ハルブ・チップ用材

### ○H28年から運転スタートするクリーンエネルギー奈良発電所(大淀町)への原木供給状況を把握・助言



### 【併せて実施する取り組み】

- ・A・B・C材の効率的搬出に向けた、仕分け方法や造材方法に関する素材生産者技術向上研修の実施
- ・仕分け作業用中間土場等の設置検討

### ○製紙、燃料チップ製造等への供給継続推進

- ・現行取引5,000m<sup>3</sup>/年(王子製紙春日井工場、北越紀州製紙紀州工場等)

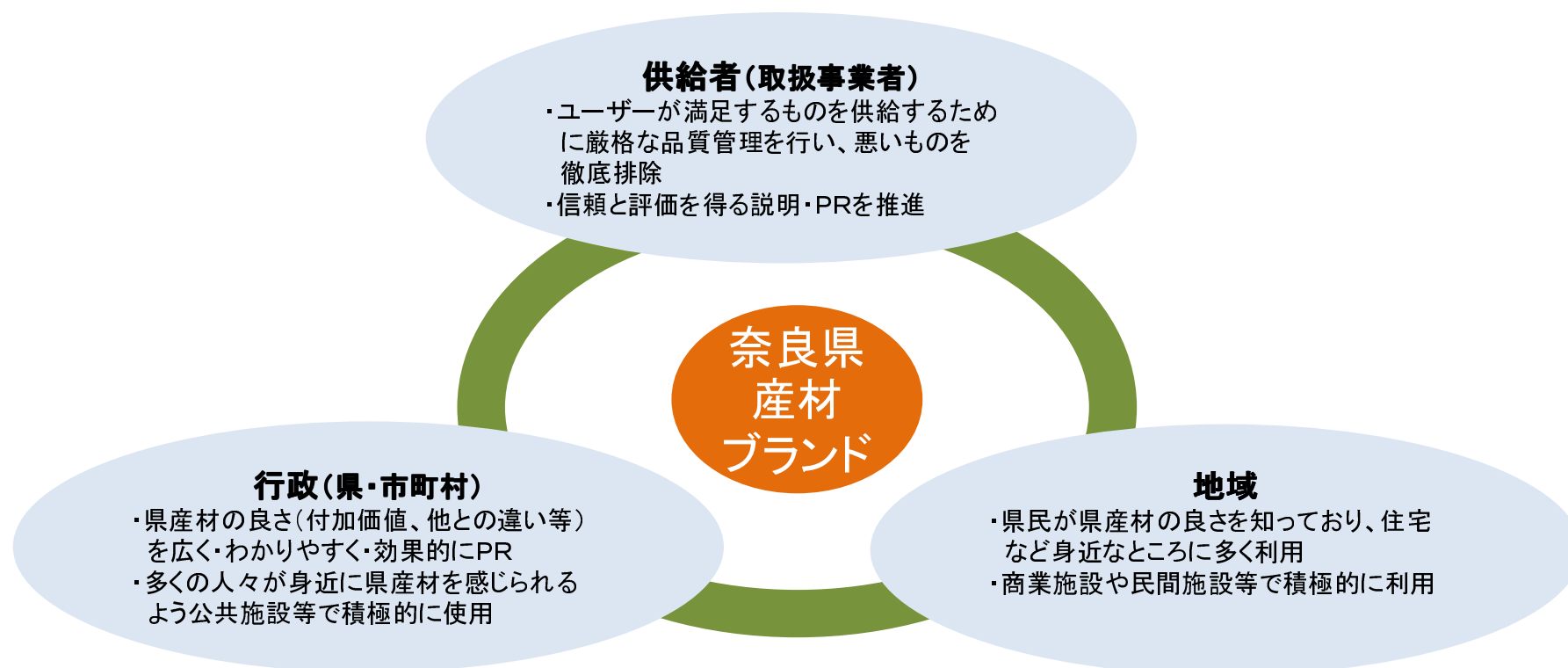
## A・B・C材

### ○川下・川中・川上をつなぐ木材需給量コーディネート機能(奈良県が商社的な役割を果たすしくみ)の構築について検討 <資料4-p9>

- ・川中・川下でのA・B・C材の需要ニーズをキャッチし山側の素材生産現場に伝える需給コーディネート機能の構築や情報伝達ツール等について検討

## ○県産材のブランド戦略について

基本的考え方：悪いものを取り除いて、ユーザーが求める良いものを供給し広めていく



# 1. ブランド力の強化と販路の拡大

A材(建築用材)

## ○PR戦略の強化

- ・奈良の木づくり運動推進月間(10月)等において県内での県産材利用にかかるPR活動を重点実施
- ・奈良の木を使う効果(子育て、教育、健康、介護等)についてわかりやすく伝えるPR冊子の作成
- ・PR戦略の専門家の助言のもと、様々な情報ツールを活用して奈良の木の魅力情報を効果的に発信 など



## ○販路の拡大

### ・首都圏における県産高級材のPR活動の展開

建築デザイナーを対象とした奈良の木フォーラムの開催、個別企業への知事トップセールスの実施、見本市への出展助成 など

### ・北関東・東北地方等に向けた奈良県産高級材のPR

東京中央木材市場、東京相互木材市場での「優良なら県産材市」の開催 など

### ・海外マーケットへの売り込み支援

中国、韓国で開催される建築関係見本市への出展支援 など



# 2. 公共建築物や民間建築物への県産材利用の推進

A材(建築用材)

B材(集成材ラミナ・合板用)

## ○公共建築物の木造・木質化の推進・PR

- ・農業大学校6次産業化施設、農業研究開発センター、県立大学、シルクロード交流館、新奈良県総合医療センター など

## ○一般住宅への県産材利用の推進

- ・県産材住宅への助成制度の充実
- ・「奈良県産材の家」建築相談会の開催、「奈良の木の家を建てられる工務店」のPR
- ・奈良の木を使った「健康・省エネ住宅」などの付加価値住宅モデルプランや、奈良の木を使用した魅力的なリノベーションモデル設計の作成・PRについて検討
- ・まちづくり施策や住宅施策における県産材利用について関係部局と連携 など



奈良公園事務所



CLT工法による  
大型木造建築物

## ○民間の大型建築物等への県産材利用拡大の方策の検討 <資料4-P10>

- ・京都府や港区での取り組みを研究 など

# 3. 木育の推進、多くの人々が身近に奈良の木の魅力を感じる暮らしの道具や土産物等への県産材利用の拡大

A材(建築用材)

## ○木育推進

- ・子どもが身近に奈良の木に触れる機会の創出  
幼稚園等へ奈良の木の積木を配布し、自然素材に触れる木育を実践  
公共的空間への木のプールなど奈良の木玩具の設置を推進 など



## ○暮らしの道具や土産物の商品化推進

- ・県産材を使用した土産物や暮らし道具の商品化推進
- ・県産材を使用したノベルティグッズによる奈良県及び奈良の木PR
- ・奈良の木・暮らしの道具オリジナルデザインの開発・PR など



土産物



ノベルティ

A材(建築用材)

#### 4. ユーザーニーズを踏まえた新製品の開発・提供、建材メーカーでの製品化等による販路の拡大、流通価格の見える化

B材(集成材ラミナ・合板用)

##### ○製品開発

- ・大手建材メーカーとの連携による吉野材フローリングや壁材等の製品開発
- ・合板メーカー等との連携による奈良県産材100%合板の製品化
- ・ハチクイ材の有効利用に向けた商品開発
  - 防腐・防蟻加工による土台材の商品化、チップ舗装など公共事業用材への利用、県産材フリー板の商品化 など

##### ○県産材製品価格表の作成・公表

##### ○県内のホームセンターでの県産材建材製品の販売 など



県産材フローリング



県産材フリー板

A材(建築用材)

#### 5. 奈良の木の魅力を発信する人材の育成

##### ○「奈良の木大学」の開講

建築学を専攻する学生等に奈良の木の魅力や木造文化などについて学べる場を提供



##### ○「奈良の木の匠」養成塾(営業マンコース・建築デザインコース)の開催

住宅の新築や改築において奈良の木利用を積極的に提案できる「奈良の木の匠」を養成



##### ○川上・川中・川下交流研修会の開催

川上(山側)の事業者がエンド・ユーザーのニーズを学ぶなど、林業・木材産業事業者が関係分野の知識を深める情報交換・研修会の開催

A材(建築用材)

B材(集成材ラミナ・合板用)

C材(パルプ・チップ用材)

#### 6. 森林への理解を深める奈良の木ツーリズムの推進

- 森林体験や林業実践体験、木工体験のもと、森林の役割や現状、奈良の木の魅力を感じていただく奈良の木ツアーを開催し、奈良の木のファンを増大
  - 森林・林業体験コース、親子で森林キャンプコース など

##### ○森林セラピーの推進

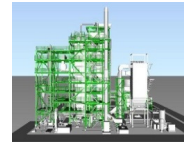
森林セラピーツアーや森林リフレッシュツアーの開催、企業研修の誘致 など



## 7. 木質バイオマスエネルギーの利活用拡大

### ○バイオマス発電事業(大淀町)へ県産材の安定供給

森林由来未利用材を計画的に供給 年間 45,000m<sup>3</sup>



### ○持続可能な「奈良県産木質バイオマス熱利用モデル」の構築

木質バイオマス製造・熱利用実証実験の推進(製造コスト抑制について検証)



御杖村地域商品券

地域商品券を利用した間伐材買い取りの取り組み拡大

民間団体等が参画する木質バイオマス利活用検討会議の運営及び木質バイオマスフォーラムの開催

木質ペレット製造の民間事業者移管について検討開始



## 8. その他

### ○次代を担う人材の養成

県内高校生等を対象に、木を使う意義や木の特長、林業・木材産業や県南部東部地域の現状等をわかりやすく伝え・考える出前授業の実施

